

Since wars begin in the minds of men, it is in the minds of men that the defences of peace must be constructed.

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない。(ユネスコ憲章前文より)



鎌倉ユネスコ

会報
第117号

ホームページ <https://www.kamakura-unesco.or.jp>

題字 平山郁夫初代会長

1989年6月創刊 特定非営利活動法人 鎌倉ユネスコ協会 : 会長 佐藤美智子

発行部数600部 発行・理事長小川研一 : 事務局〒248-0012鎌倉市御成町11-2 ヤノヤビル 2F

【編集部】小川研一、尾花珠樹、長嶋裕子、新倉恒章



ニューヨーク・マンハッタン島先のニューヨーク港入口に立つ、世界遺産“自由の女神像”

目次	1ページ 表紙(自由の女神像)・法人会員	5ページ 難民問題を考える、広町観察会、バザー
	2ページ 佐藤会長、小川理事長挨拶・第34回総会	6ページ 田中優子氏の提唱、新刊紹介
	3ページ ウクライナ緊急メッセージ、募金活動	7ページ 表紙について、アルペ難民センター
	4ページ Spotlight農・福&地 連携の小さな試み	8ページ 事務局だより、事務所移転

鎌倉ユネスコは、次の法人会員の方々に賛助会員として活動を支援していただいています(順不同)

鎌倉女学院/鶴岡八幡宮/鎌倉大仏殿高德院/山田養蜂場/御代川/鉢の木/絲綢社/清興建設/石井印刷
豊島屋/鎌倉プリンスホテル/井上蒲鉾店/アペックス/腸詰屋鎌倉/信光社/鎌倉パークホテル/アスラン
清泉女子大学/大塚製菓・横浜支店/鎌倉アソシエーツ/かまくら春秋社/斉藤建設/江ノ島電鉄/北鎌倉女子学園
博古堂/鎌倉ビール醸造/神中運輸/ナカムラ生花/鎌倉ハム富岡商会/華正樓・鎌倉店/大塚オーミ陶業
神奈中観光/MAKOTO税理士法人/セラリカNODA/麓技研/鎌倉紅谷/地域生活サポートまいんど

佐藤美智子会長挨拶

長引くコロナ禍の影響で鎌倉総会は二年続けて会員皆様にお集まりいただくことができず、誠に淋しく残念至極でしたが、今年はようやく皆様とお会いできる総会となり嬉しく思います。

通常の生活はできないながらも、当協会は小川理事長、長嶋事務局長のご熱意あるご指導のもと、各理事、会員の皆様が従来と変わらず各々の部署で活発な活動を続けて下さいました。



こと、頭のめてで、閉会の挨拶すら真面にでき下がる思いず、時代の変遷を痛感いたしました。オンライン会議の度に長嶋事務局長のお世話になり皆様にご迷惑をかけるばかりなので、今年度で会長を辞退させていただきます。

昨年の中東ブロックユネスコ大会もオンラインで実施され、小島副理事長の基調講演を初め、小川理事長、小池理事が横浜会場に詰めて会を進行させて下さいました。私にとってはオンラインでの会は初

め、心からご尊敬申し上げるばかりなので、今はまた一年間皆様から勉強させていただきたく思っております。

め、心からご尊敬申し上げるばかりなので、今はまた一年間皆様から勉強させていただきたく思っております。

小川研一理事長挨拶

晴天の鎌倉広町・春の自然観察会に参加、専門家のガイドと一緒に広町緑地を廻る(P5山本理事の記事参照)。植物達は白、黄色、紫など、色とりどりの服で着飾っている。小さな花々一本一本の成長に目を凝らしながら自然の中を歩いていると春の息吹が聴こえるようだ。春夏秋冬、折々の花々が広町を演出している。道端の花についてガイドの方の丁寧な説明に頷き、野鳥のシンフォニーに聞き入り、自然の一端に触れる貴重な機会。穏やかで平和な時が流れ、一面

の麦畑からは緑が匂った。

半世紀近く前に見た映画「ヒマワリ」のロケ地は、ヨーロッパの穀倉地帯、ウクライナのキーウ南500キロに位置するヘルソン州にある。いま、ロシア軍の猛攻により制圧の危機にある。平和な暮らしは一晩で一変した。理不尽な侵攻から4ヶ月、武力による現状変更はいかなる大義も成り立たないし、決して共感を得られない。

ムソルグスキー「展覧会の絵」最終章「キーウの大門」は黄金の門と言われ、その雄大な曲調から、風に揺らめき黄金色に輝く穂先、豊かに実

る麦穂を連想させる。広町には来年も春はきっと訪れる。ウクライナに、花々や小鳥たちのシンフォニーに耳を傾け得る日々がいつ訪れるのであろうか。

武力には武力で対抗する論調が声高に聞こえるようになった今こそ、心に平和の砦を築こう、違いを認め合う多様な衣を身に纏った高く堅牢な砦を。すべての国とそのリーダー、すべての民族とその一人一人は改めて心に平和の砦を築こう。ウクライナに一刻も早く平和で穏やかな日常が戻ることを願ってやまない。合掌。

第34回鎌倉ユネスコ協会総会開催

第34回定例総会が6月25日(土)

14時から鎌倉パークホテルで開催された。会員を交えた総会はコロナ感染の影響から3年ぶりとなる。会場には会員10名、理事・監事の役員22名、書面表決参加93名含め計125名の会員に参加していただいた。3密回避など基本的な感染対策を踏まえたリアル開催となった。佐藤美智子会長の挨拶、来賓でお越しの松尾崇鎌倉市長(比留間彰副市長が代理)のご挨拶の後、長嶋裕子事務局長の司会進行で議事を進めた。2021年度事業報告・決算・監事報告、



2022年度事業計画・予算の審議後、いずれの議案も原案可決承認し、次に欠員の監事選任を議題とし中村光義氏(前名古屋・千種税務署長、MAKOTO税理士法人主宰)を満場一致で可決選

任した。次に報告事項として事務所移転について報告・了承後、表彰に移り、会員20年のシルバー賞として個人2名に、10年のブロンズ賞として4法人、11名の個人会員に佐藤会長から記念品・表彰状が授与された。その後、退会入会会員の紹介があった。本来ならその後に懇親会に入るところだが、コロナ禍から以上の審議等の後、尾花珠樹副会長の挨拶により閉会とした。次回総会は可能な限り通常総会の形式によって開催されることを願うばかりである。(小川研一)

鎌倉ユネスコ協会緊急メッセージ (3/2鎌ユHPに掲載)「ウクライナに 平和と安寧を」

ウクライナ危機に関する日本ユネスコ協会連盟の声明(下記抜粋参照)を支持する。1958年に採択された鎌倉市の平和都市宣言に定める恒久平和の精神に照らし、ロシア政府のウクライナ侵攻に強く反対し、一日も早くウクライナの人々に平和と安寧な暮

らしが確保されるよう心から祈念する。

2022年3月2日鎌倉ユネスコ協会会長
佐藤美智子・理事長 小川研一

「ウクライナ危機に関する声明」

2022/2/27日本ユネスコ協会連盟「戦争は人の心のなかで生まれるものであるから人の心の中に平和の砦を築かなくてはならない」というUNESCO

の精神を、日本に世界に広めるために創設された私たち公益社団法人日本ユネスコ協会連盟は、この度のウクライナ危機に重大な懸念を持ちUNESCO本部の声明を強く支持します。UNESCOの精神に立ち戻り、ロシア政府は直ちに力による問題解決を中止することを求めます。また世界の人びとはウクライナの平和のための声を挙げましょう。

ウクライナ緊急支援募金活動

鎌倉駅東口で3/10~12に行ったウクライナ支援募金活動は、天候に



恵まれ、人出に恵まれ、参加者に恵まれ、そして募金額に恵まれた3日間でした。会員・役員延50人近い皆様、途中、飛び入りで松尾崇鎌倉市長に

も応援いただきました。改めて多くの皆様のご支援・ご協力に感謝申し上げます。



おかげさまで、523,593円の募金(寄付含む)が集まり、国連WFPに30万円及び日本ユネスコ協会連盟の「ユネスコ協会・ウクライナ緊急募金」に223,593円をお送りしました。ウク



ライナに一日も早い平和と安寧な暮らしが戻りますよう祈念し、お礼と報告にかえさせていただきます。ありがとうございました。

2022年3月16日 鎌倉ユネスコ協会
会長佐藤美智子・理事長小川研一

ウクライナ人道支援

チャリティ・コンサート

神奈川県など六団体主催のウクライナ人道支援チャリティ・コンサートが5月8日(日)に神奈川県民ホールの大ホールをいっぱいにして行われた。開会の神奈川県知事の挨拶で、県には200名以上のウクライナの方々が住まわれているので、その方々を頼ってウクライナから避難される方が来るであろう、準備はいかにとポーランド大使に相談したところ、今日のコンサートの運びとなった、とのこと。続いてポーランド大使は自国では

ウクライナから避難してきた250万人の人々に国民が家庭を開放して支援している、と。続くウクライナ大使は皆さんの支援に謝辞を述べられた。

オーケストラは神奈川フィル。ピアノ



はポーランド出身のミハウさん。ソプラノはウクライナ出身のオクサーナさん。ファイナーレのウクライナ国歌の後には割れんばかりのスタンディングオベーションがいつまでも鳴り響き、素晴らしい演奏とウクライナの対ロシアへの粘りを賛美した。外務大臣機で避難されてきた方を4名受け入れた鎌倉市もこのコンサートに特別に協力。佐藤美智子会長はオクサーナさんの来日以来19年のお知り合い。コロナ禍で久方振りの終演後の対面となり、ご両人感激されました。早くウクライナに平和が訪れることを切に願います。(奥山誼子)

Spot Light

農・福&地 連携の小さな試み

私が代表を務めている社会福祉法人は鎌倉市と相模原市に約400人の知的障がい者と高齢者の支援を行っています。相模原市緑区(旧藤野町)の佐野川地区に入所・通所の施設が5か所あります。地域(地区)との連携を法人理念の3本柱の一つにしています。現在、地域との交流として、高齢者の足となる「いくべーかー」を地元有志の方々と一緒に運行しています。「いく



べーかー」は私たち法人の3つの施設がワゴン車と運転手を提供し地元で高齢の希望者を募り週3回、医療機関・買い物・JR上野原駅などへの送迎をするための無料のダイヤモンドバスです。

最寄り駅の上野原駅まで車で20分かかる佐野川地区の高齢者には大変喜ばれています。他に地域交流として、地区の皆さんとご利用者・職員が一緒になって楽しむ「春まつり」の開催(地区の祭りとして定着)、施設会議室等の開放、交流の場となるカフェの運営を行っています。また、地元有志に委託して施設の植栽等の手入れもお願いし、地域と密着した施設の運営を目指しています。

これらに加えて地区の有志に協力してもらい施設利用者にサツマイモ、ジャガイモ、キウイ、シイタケなどの収穫を体験してもらい、ご利用者に喜ばれています。今年から新たな体験として、地元の茶園主と地元有志の協力により、茶摘み体験と茶園の管理作業を日常支援に加えています。今後利用者の日常支援として定着できるかの見極めが必要となりますが、農業と福祉の連携に加えて地域(地区)との連携を模索する小さな試みを始めています。

佐野川茶の紹介をします。佐野川地区には1970年代から80年代にかけて、茶農園が130軒あり、年間6000

kgの収穫があったそうです。現在、茶農園は3軒、収穫量はピーク時に比べると激減しているそうです。茶園主は空気も水も清らかな陣馬山の麓で栽培



される、豊かな香りと甘みのある強いコクが特徴の「佐野川茶」を復活させたいと生産活動に励んでいます。

以上が私たち社会福祉法人の佐野川地区における地域との連携ですが、これらの活動はSDGsの趣旨に合致したものと考えています。福祉分野はSDGsの定着はこれからなのではないかと感じられます。私たち法人も地域連携だけでなく日常の活動の中にSDGsを定着させたいと思っています。

(兵藤 芳朗)

あいおいニッセイ同和損保ご寄付

2月21日(月)、旧鎌倉ユネスコ協会西口事務所にて、あいおいニッセイ同和損保湘南支店長・成田英司様から鎌倉ユ全体活動に対して30万円のご寄付をいただいた。2018年度10万円、2019年度30万円、2020年度30万円に引き続き4年連続のご寄付となる。同社の環境保全を目的とした取り組みの一



環として、CO2を出さない、紙を使わないことによりコスト削減したものを還元させていただいている、と成田様から説明があった。いただいたご寄付はSDGsみらい塾はじめ鎌倉活動の貴重な財源を占めている。今後とも私たちの活動を活発に展開し、より多くの企業や個人の皆様からご芳志をいただけるよう努める所存である。

(小川研一)

井に蒲鉾店

アピセラピーを追究する。

山田養蜂場

YAMADA BEE FARM

〒708-0393 岡山県苫田郡鏡野町市場194

TEL : 0868-54-1971

URL : <https://www.3838.com>

勉強会の開催

「アフリカの難民問題を考える」

2022年4月3日(日)午後4時からオンラインによる勉強会「アフリカの難民問題を考える」を開催しました。勉強会には、佐藤会長以下、17名の理事・会員が出席しました。

はじめに、政府開発援助政策を専門とする横浜国立大学准教授の小林誉明さんから、アフリカのウガンダにおける難民の受け入れについてレクチャーをしていただきました。サブサハラアフリカ(サハラ砂漠以南のアフリカ)では、内戦や民族紛争による難

民が多く発生し、人道上きわめて深刻な状況が続いていますが、ウガンダ政府はコンゴ共和国、南スーダン、ルワンダなど隣国からの多くの難民を受け入れています。この地域では従来から人々が比較的自由に国境を越えて移動していたそうですが、ウガンダ政府は難民に住居、土地、教育、仕事の機会を提供し、定住化を支援しているとのこと。ウガンダのこうした取組は、難民の受入れに消極的な日本とは対照的で、今後の難民支援を考えるうえで大変に参考になりました。また、小林先生のレクチャー後は、コンゴ共和国出身で鎌

倉ユネスコ協会青年部のギラン・ムエンゲ氏からコンゴにおける紛争の背景や難民の状況に関する話を聞きました。コンゴにおける紛争の背景には、携帯電話などで使われる希少鉱物をめぐり争いがあります。医師の資格を持つムエンゲ氏は政治的迫害を避けるため日本に逃れ、現在は湘南鎌倉総合病院の国際支援室で外国人の支援を行っているとのこと。難民問題は遠い国の出来事のように思われがちですが、私たちにとって身近な問題であることを改めて認識しました。

(小池 治)

広町緑地 春の植物観察会に参加して



4月23日の屋下がり植物観察会に参加しました。鎌ユ関係者は約10名、ボランティアガイド3名の案内で湿地の周り



を散策しながら目につく草花の名前や特徴を教えてくださいました。「雑草という草はない」という昭和天皇のお言葉通りよく見ると小さな草はそれぞれ可憐な花を咲かせていました。明るい陽射し、小川のせせらぎ、鶯の声に酔ってお

りましたら「皆さん健脚のようだから階段上がりましょう」とガイドさん。一瞬躊躇するほどの急な階段でしたが全員頑張って登りました。上の分岐点から鎌倉山や七里ヶ浜に続く道があり、広町緑地の広さを実感しました。たくさんの植物の名前を教えてくださいましたが、ほとんどすぐに忘れてしまいました。覚えているのは日本たんぽぽと西洋たんぽぽの見分け方くらいですが、四季折々異なる姿を見せてくれる緑地をまた訪れたいと思いました。

(山本雪江)

バザー便り

コロナ禍で恒例のバザーが全て中止。そんな中、深沢の鎌ユ倉庫で毎月第2日曜日にバザーを開催し、緊急事



態宣言中の2回を除き計17回目を5月に開催しました。今年度4月からは鎌ユ倉庫会場と50メートル余り離れている我が家駐車場、お向かいの駐車場所所有者の方のご厚意により3カ所でバ



ザーを同時開催しています。倉庫から荷物を運ぶのが大変になりましたが、幸いなことに、より人通りが多い場所になり、人の流れも分散できてよく売れるようになりました。

毎月、バザー開催のための事前準備は欠かせない作業ですが、早朝にバザーの献品を届けて下さる本岡さんはじめ、一度も休むことなく開催前のテン

ト張りを担って下さる石田さんら多くの会員に支えられ、そして毎回楽しみにして来て下さる多くのリピーターのかた方も増え続けています。実は一番のお客様はユネスコ会員で、売りながら買いながらの大切な仲間です。安く掘り出しものが沢山あります。皆様もどうぞ覗きにきてください。

今後もアジア識字支援・コロナ困窮者支援など微力ですが草の根の支援のためのバザーを続けて参ります。

最後になりましたが、ウクライナに一日も早く平和が訪れるようお祈りしています。

ユネスコの精神は「心の中に平和の砦を築こう」ですから。

(久保ツユ子)

田中優子氏、東京新聞の紙上で おとなのための寺子屋運動を提言

大津の三井寺で開かれた仏教研究会で宗教史研究者・末本文美士氏がユネスコ憲章前文を紹介されたのを受け、田中優子法政大学前総長が東京新聞紙上(6月19日)で「ユネスコ前文が示唆するもの」のタイトルのもと、1400字に及ぶ秀抜な論を展開。

文中で田中氏は国がその時の政権に都合の良い知識だけを「教育」するのであれば、心の中に平和のとりでを築くことはできない、と指摘した上で最後を以下の提言で締めくくっておられる。

紀元前から学問と議論は宗教も巻き込んで政治や社会を考えるうでの基盤であった。人間にとって真に必要な価値観は何なのか、今はそれを考え

議論する場が失われている。現政権は学問を軽視し、国の予算は軍事増強に使おうとしている。そのような国では、教育は戦争に都合の良い方向に向けられるであろう。人びとが社会の中に「学び」と「思考」と「議論」の場を、次々に作り出すしか方法はない。日本では寺子屋=私塾運動が、大人たちのためにこそ必要なのだ。(文責・尾花)



新刊紹介

学生時代にユネスコと出会ったそれぞれの回想記

人生で最も感受性に富んだ思春期にユネスコに触れた2人。その後の半世紀を振り返って、ほぼ同時に刊行したエッセイ集から、現在に至る道程をエールを込めてのご紹介です(尾花)

山田勝彦著

青春の交差点

屋敷内にいくつもの土蔵のある農家を継ぐものと期待していたご両親を説得し著者は中央大学に進学。寄寓したのは当時、全国の青年ユネスコ組織を束ねるイトコの家。著者とユネスコとの熱い出会いの場となった。

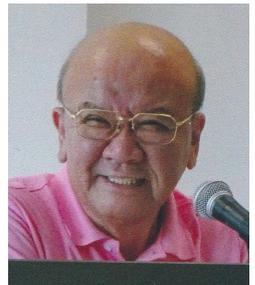


卒業後は郷里の山梨日日新聞社に入社。「あさま山荘事件」はじめ、第一線記者として数々の事件を手がけた。同時に地元ユネスコ協会のリーダーで活躍。本書はその来し方の回想記。さすが記者として鍛え抜かれた筆の運びは軽やかで中身も濃い。同社常務取締役を経て退職後は農業見習いにも精を出し、現在は来年、山梨県で開催のユネスコ全国大会の準備に、山梨県ユ連会長として着手。「全国大会は人と人が顔を合わせなきゃいけないじゃん。Web開催では意味がない」と、コロナ収束を期待しつつ意気軒昂。(山梨日日新聞社制作、A5判ハードカバー、234P。私家版)

山下邦明著

「心の中に平和のとりでを 築く」に魅せられて

本書のサブタイトルは「ユネスコを通して出会った人々との軌跡50年」とある。上智大学大学院在籍中に就職した日本ユネスコ協会連盟事務局での20年間は国際部長として「世界民間ユネスコ連盟」の設立に力を注いだ。その後はUNESCOパリ本部、九大教授、日本学術振興会バンコクセンター長を歴任したが「そのどの職場でも根幹に在ったのはユネスコ憲章前文の理念と、その精神を共有する人々との出会いだ」とエッセイで謙虚に述懐している。



後半60ページは、これから国際機関でグローバル・キャリアとして活躍を志す若い世代に期待して、ユネスコ憲章、国連やユネスコが採択した重要な宣言や条約、世界や日本の平和を軸にした年表ほかの資料編。(国際開発ジャーナル社発行、丸善出版発売、A5判、232P。税込¥1,100)

開業120周年

江電



日本のナショナルトラスト団体第1号

公益財団法人 鎌倉風致保存会

〒248-0011 鎌倉市扇が谷4-29-1

TEL0467-23-6621 FAX0467-23-6631

E-mail fuhchi@fsinet.or.jp

みどりのボランティアと一緒に汗を流しませんか！

表紙の絵について

2013年に学生時代の友達3人で66歳を記念してルート66走破を主目的にアメリカ大陸横断の旅に出ました。まず一人が25年間住んでいたプリンストンへ。ここからニューヨーク・マンハッタンへ アメリカの世界遺産の一つ”自由の女神”は独立100周年を記念してフランスから贈られたものです。スタッテン島に渡るフェリーがこの”自由の女神”の横を通過していくのです、ニューヨーク市営のフェリーは無料です。ニューヨークの次は



ルート66の出发点シカゴへアムトラックの夜行列車で移動しました。いよいよルート66全線走破のスタートです。ルート66はコースが場所によっては何回も変わったりしていますが各州もヒストリック・ルート66として保存活動をしています。

イリノイ州シカゴを出るとあちこちに古い鉄橋が保存されています。ミズーリ州に入ってもずっと畑が続きます。50年代風のガソリンスタンド等が残されています。お昼は殆どハンバー



カンサス州は東南部分をわずか10マイルほどかすめるように通過しています。

マイルかすめるだけでオクラホマ州に入ります。タルサに泊まりましたが車での旅はどこまで走れるか分からないのでモーターは全く予約無しです。オクラホマ州からテキサス州に入る頃は気候も大分乾燥し西部に入りました。テキサス州に入ると、どの商



アリゾナ州セリグマンはルート66保存活動発祥の地。この床屋さんが好きでした。

店にも入口に“銃持ち込み禁止”の表示があります。さらに走りニューメキシコ州サンタフェへ。ここは1607年に作られた歴史のある街です。アリゾ

ナ州に入るとルート66保存活動発祥の地セリグマンがあり世界中から観光客が訪れています。我々がアリゾナ州に入った時は高温で乾燥し山火事警報が出ている中、山火事で消防隊員が19名亡くなる惨事が起きました。我々もオクラホマ州に入った頃から車に大量の水を積み込みました。凄いのはアメリカでガソリンスタンドに

次のカンサス州は南東部を僅か10数

州に入るとルート66保存活動発祥の地セリグマンがあり世界中から観光客が訪れています。我々がアリゾナ州に入った時は高温で乾燥し山火事警報が出ている中、山火事で消防隊員が19名亡くなる惨事が起きました。我々もオクラホマ州に入った頃から車に大量の水を積み込みました。凄いのはアメリカでガソリンスタンドに



シカゴを出て約4000キロ終点のロスアンゼルス・サンタモニカの海岸桟橋に無事到着しました。

入ると必ずビールを売っている事です、日本では有り得ませんね！アリゾナ州の次は最後のカリフォルニア州に入ります。この辺りでロッキー山脈を越えるのですがルート66も唯一の山岳道路になります。あちこちに鉱山や鉱山跡を見かけます。この後はロスアンゼルスを目指しひたすら下るばかりです。そしてルート66の終点のあるサンタモニカの海岸へ無事到着した。4000キロの旅でした。

(新倉恒章)

勉強会・アルペ難民セミナー

このたびのロシア侵攻でウクライナ難民が大量に発生したことを契機として、わが国の難民政策のあり方が改めて問われている。そこで5月22日の当協会理事会の直後に、鎌倉市内の難民シェルター「アルペなんみんセンター」の有川賢治事務局長からその現状についての講話を緊急にお願いした。同施設は、イエズス会が修道院であった建物と周辺の広

大な敷地を2年前より無償で貸与されているもので、現在はミャンマーやスリランカなど10カ国からの難民が申請の結果を待つ間に「仮放免」された13人が入居している。つい最近はウクライナ難民のご夫婦が新しく加わった。「仮放免」中のため就労はできないので、敷地内での野菜作りや地域食堂「ふらっとカフェ」での郷土国料理作り、さらには鎌倉市地域通貨クルッポなどで地域のボランティア

と仲良く交流している様子がビデオで紹介された。一方で、これらはもっぱらボランティアによる無償作業と寄付で維持されていることを承知しておきたい。すなわち国はこれらの難民申請中の人たちのケアをもっぱら市民の善意に頼っているということである。日本はG7国の一員なのだから、世界の平和維持と人権保護に政府自身ももっと大きくコミットするべきである。(石田喬也)

事務局だより

◆1月定例理事会(1/16)は新型コロナ感染者急増の為中止

◆2月定例理事会(2/20)オンライン(Zoom)開催17名出席

◇2022年度事業計画案・予算案について3/11締切で各委員会委員長に作成依頼◇2022年度総会は6月25日(土)PM鎌倉パークホテルで開催予定◇国際交流委:アルペなんみんセンターのミャンマー出身、ミミさんを講師にミャンマー料理を実施。(16名参加)◇青少年委:2022年度絵画展開催について意見交換◇SDGs委員会:2022年度みらい塾に向けて計画中。

◆3月定例理事会(3/20)オンライン開催(Zoom)17名出席◇2022年度事業計画案を承認。2022年度予算案は審議中。◇青少年委:2022年度絵画展開催に向けて鎌倉市教育委員会とも連携・調整中。◇SDGs委員会:2022年度みらい塾は参加者を神奈川県及び中部東ブロックまで拡大して

募集。◇ウクライナ危機人道支援活動、3/2付けで鎌ユのHPにメッセージを掲載。募金活動を3/10～3/12まで鎌倉駅東口頭で行い、延べ50人の会員、役員が参加。52万円余の支援金は全額、国連WFP及び日ユを通してウクライナ人道支援金として寄付。

◆4月定例理事会(4/17)NPOセンター鎌倉で開催。17名出席◇2022年度予算案を承認。◇事務所移転についての説明、5月理事会で議案提案を了承。◇6月25日総会の参加形式について意見交換◇青少年委:絵画展会場は鎌倉生涯学習センターギャラリーにて開催予定、◇SDGs委:SDGsみらい塾を7/3から9回実施し、6/12にオンラインによるキックオフミーティングを実施予定。◇科学環境委:4/23広町自然観察に参加、稲村ヶ崎で採取の砂鉄から刀剣を作るタタラ製鉄についての講演会を8月に開催予定。

◆5月定例理事会(5/22)NPOセンター鎌倉で開催。17名出席◇総会議案書すべて

確認。事務所移転について承認。

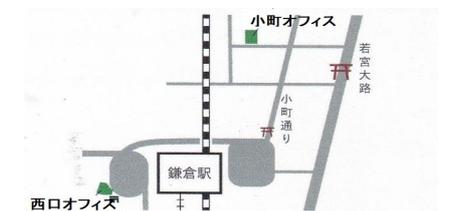
◇科学環境委:8月7日14時から16時鎌倉NPOセンターで(オンラインで同時配信)「稲村ヶ崎の砂鉄を使った、たたら製鉄の再現」と題して勉強会を開催予定。その事前学習として8/3(水)横浜市埋蔵文化財センターでスタディツアーを実施予定。◇青少年委:「2022絵で伝えよう!私の町のたからもの展」作品応募期間(9/1～11/18)審査(12/2)作品展示(12/23～12/25)表彰式(作品展示会場で最終日に開催予定)◇SDGs委:青年部メンバー中心に7/30(土)「鎌倉市議有志と語ろう会」を実施予定。◇コミュニティ委:会報117号を7/1発行予定。◇第34回総会を通常の形式で開催予定◇5月理事会直後、アルペなんみんセンター事務局長、有川憲治氏による「日本の難民受け入れについて及びアルペなんみんセンターの活動について」勉強会を開催。◇6月25日(土)14時から鎌倉パークホテルで総会を開催した。(長嶋裕子)

鎌ユ事務所移転について

2019年8月から利用していた事務所を、先月5月9日から鎌倉市御成町11番2号ヤノヤビル2階(鎌倉・旅する仕事場内、鎌倉駅西口す



ぐ)へ移転しました。可能な限り経費を削減し、可能な限り自律的運営を目指し、可能な限り利便性を保つためでした。

**新会員紹介コーナー(敬称略)**

個人会員: 杉野 恭、田村耕一郎

編集後記

会報第115号から編集のお手伝いをさせていただいています。まだまだソフトの扱い方も良く分からないままです。これからも宜しくお願い致します。(新倉恒章)



まいんどは地域に住む障害のある方の

生活や就労等の相談やお手伝いをするNPOです

鎌倉ユネスコ入会のお誘い

年会費 5000円

入会申し込みやお問い合わせは下記へ

info@kamakura-unesco.or.jp